

多久の歴史はこの一冊から

「丹邱の里」16号発行

多久市郷土研究会（会長 尾形善次郎^{おがた ぜんじろう}）の研究誌「丹邱の里」16号が「梶峯城と多久城下町」を特集して発行されました。

A4版110ページ400部発行で、一部「研修支援費」として1,200円、中央公民館、多久市物産館、資料館で販売中です。

研究誌は二部構成となっており、第一部が建久年間（1190年）に始まる前多久氏と戦国時代末期（1590年頃）の後多久氏の時代と歴史を特集。第二部は、朝鮮通信使など郷土研究会会員各自が課題を取り上げ、考察した内容となっています。

「昨今の城ブームに加え、昨年、比較的身近な黒田官兵衛が大河ドラマで取りあげられたこともあり、今回の特集テーマ、発行に至りました」と意図を語る尾形会長。

「この研究誌が

地域の人が豊かな
口マンあふれる多
久の歴史を知る一
助となり、地域創
生につながる幸
いです」と今後の
展望を語りました。

▼丹邱の里16号を手に
する尾形会長



胸を張って16人が堂々と発表！

～平成27年度青少年育成市民大会・第34回多久市少年の主張発表会～

多久市青少年市民大会・多久市少年の主張発表会（多久市青少年育成市民会議・多久市ライオンズクラブ主催）が6月20日に中央公民館大ホールで開催されました。

青少年市民大会では、2団体と3人に対し、青少年育成への功績を称え、表彰が行われ、その後主催者による大会宣言（案）が提案されると満場一致により採択されました。表彰者については、次のとおりです。

団体 東部太鼓

個人

西溪校 釈菜の舞
石井順二郎（南多久町）
川内野嘉明（多久町）
諸江 啓二（西多久町）



多久市少年の主張発表会では、小学生10人、中学生6人が、家族のことや、将来の夢、命の大切さや貴重な経験などを凛とした表情で堂々と発表しました。

審査員講評では、中川正博教育長が「このような機会は生涯の財産となります。新鮮な感覚で、感動する心を持ち続けて欲しい。ますます自分を磨いて欲しい」と講評しました。発表会の優秀賞は次のとおりです。

（優秀賞）

田中 莉加さん（中央校6年）
坪上 愛加さん（西溪校6年）
野方 恵委さん（中央校9年）
村山 翔平さん（中央校9年）



▲発表を終えてみんなで記念撮影の様子

市長コラム

温故創新

Message for citizen

さらなる創造発展に向けて

市長 横尾俊彦

国会は9月まで会期を延長して熱論が展開されます。国の政策決定は地方に関わる改革にも及ぶので、それらにも尽力しつつ奔走しています。

医療関係では国民健康保険の平成30年度からの都道府県単位の運営移管が5月27日に国会議決。この改革については厚生労働省の社会保障審議会・医療保険部会で、多久市の現場視点と市民目線であるべき姿を求め意見を述べてきました。

教育再生会議は5月14日に第7次提言を首相へ手交してこれから制度改革実施の流れですが、中央教育審議会・生涯学習分科会で、21世紀にふさわしい学びと未来を担う人材育成を念頭に提案意見を述べています。また、有志首長で立ち上げた教育再生首長会議で、自治体レベルからも積極的に教育再生を進めるべく提言を続けます。

高齢者医療では後期高齢者医療広域連合の全国協議会長として6月10日に政策提言を厚生労働大臣へ提出し、長寿の高齢者が安心して医療を受けることができるように力を尽くしています。

10月から動き出すマイナンバー制度については、改革志向の市長による番号創国推進協議会の会長として、その導入とより良い有効活用について市民目線に立った研究・提言を行っています。

さらに地方創生では、全国市長会総会前日の6月9日に石破大臣ともお目にかかり、地方の活力創造に向けて尽力する思いを交流できました。

衆知を集めて、未来を拓く新たな創造に挑む。その姿勢と志でさらに精進して参ります。